

令和元年度 第1回 仙台市景観総合審議会

日時：令和元年7月12日（金）

14時～16時

場所：本庁舎2階 第1委員会室

次 第

1. 開会
2. 都市整備局長挨拶
3. 会長挨拶
4. 事務局からの報告
5. 議事
〈審議事項〉
 - ・今後の景観施策のあり方について
(景観施策の評価検証のまとめについて)
6. 閉会

— 配 付 資 料 —

- 資料1：今後の景観施策のあり方について
(景観施策の評価検証のまとめについて)

仙台市景観総合審議会 委員名簿

任期：平成30年5月15日～令和2年5月14日

(平成31年4月1日現在)

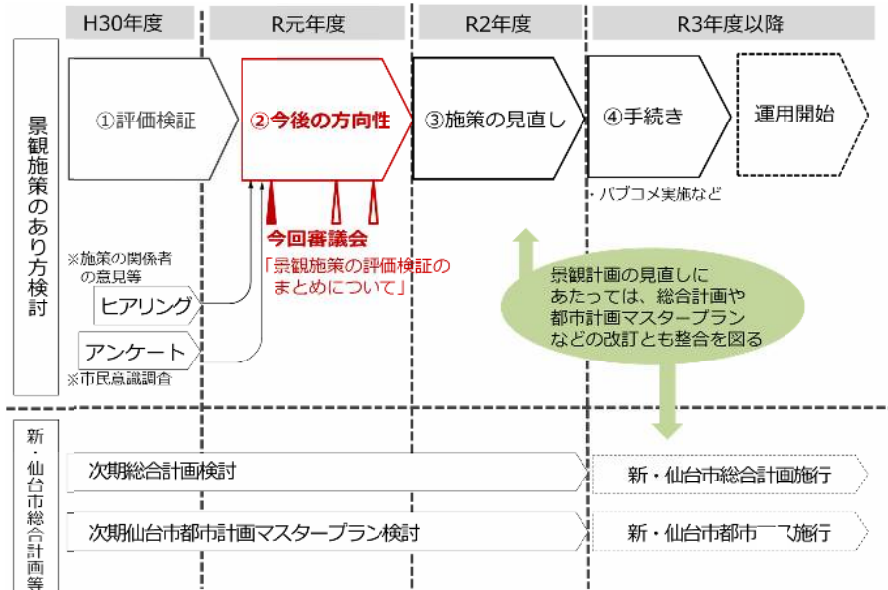
氏名	所属・役職等
いなば まさこ 稲葉 雅子	(株)たびむすび 代表取締役 (株)ゆいネット 代表取締役
こばやし としこ 小林 淑子	宮城県建築士会会員 (株)魁設計 設計室 室長
すぎやま あきこ 杉山 朗子	(株)日本カラーデザイン研究所 シニアコンサルタント
たかやま ひでき 高山 秀樹	仙台商工会議所 理事・事務局長
たけやま りょうぞう 武山 良三	富山大学 理事・副学長
とちくぼ まさゆき 杼窪 昌之	宮城県屋外広告美術協同組合 常任相談役 (株)アキバ商会 代表取締役
はしもと けいいち 橋本 啓一	仙台市議会議員
ばば たまき 馬場 たまき	尚絅学院大学人文社会学群人文社会学類 准教授
ふなびき としあき 舟引 敏明	宮城大学事業構想学群 教授
ふわ まさひと 不破 正仁	東北工業大学工学部建築学科 准教授
ほり しげる 堀 繁	東京大学名誉教授 (一社)まちの魅力づくり研究室 理事
やん しゅあん 巖 爽	宮城学院女子大学生生活科学部 教授
よしかわ ゆみ 吉川 由美	(有)ダ・ハ プランニング・ワーク 代表取締役

(五十音順, 敬称略)

今後の景観施策のあり方について（景観施策の評価検証のまとめについて）

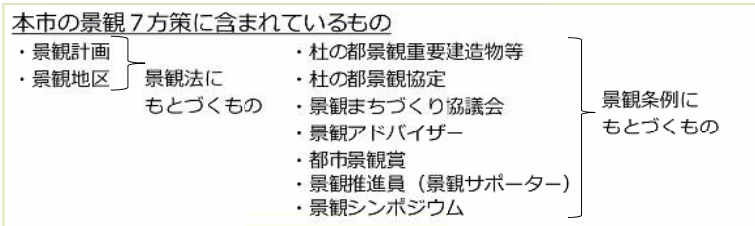
1. 検討の流れ

平成 30 年度は、これまでの景観施策の評価検証を行った。令和元年度は、評価検証のまとめを行った上で、景観施策の今後の方向性を検討する。



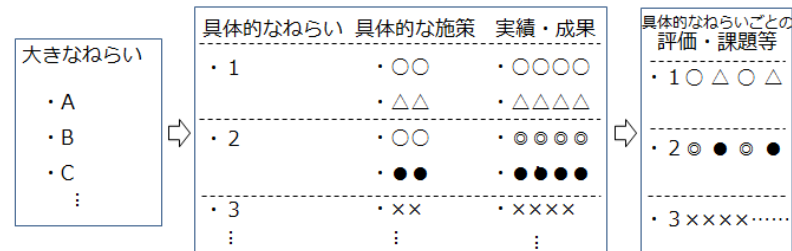
2. 前回審議会（評価検証）のふりかえり

【仙台市の景観施策】（前回説明）



【評価検証の方法】（前回説明）

これまでの景観施策のねらいを 14 項目の具体的なねらいに分類し、ねらいごとに、対応する具体的な施策、施策の実績・成果を整理し、評価・課題等をまとめた。



【評価検証の結果】（前回説明）

(○：できていること ●：課題や検討事項)

景観計画、景観地区等に関すること

- 市全体として、大規模な建築物を中心に、派手な色彩や周囲から突出したものを抑えることができています。
- 市街地中心部の複数の眺望点からの周囲の緑などの眺望は保全することができています。
- 都心部やその周辺では、大規模な敷地のものを中心に、オープンスペースや緑の量の確保につながった。
- 確保されたオープンスペースや緑が、ねらいの一つである街の賑わいや潤いの創出に十分につながっていないものもあり、質の高さを誘導する施策の検討が必要である。

景観条例等の施策に関すること

- 景観のシンボルとなる建築物等の保全が一定程度できている。
- 杜の都景観重要建造物等の指定は、10 年以上前の方針にもとづいているので、今後どのようなものを保全していくかの検討が必要である。
- 屋外広告物は、細かな基準を設けることで、街並みとの調和を図ることができている。
- 郊外などでは、派手な色彩や過度な設置の屋外広告物もあり、大きさなどの基準以外への対応の検討が必要である。
- 市民等との協働による取り組みや市民等の取り組みの支援は、一定の成果があった。
- 市民との協働による取り組みは、時代に合ったものとするとともに、施策の効果を上げるための手法などの見直しが必要である。

【審議会からの主な意見】

- 景観計画による規制の施策は、評価できるものであり、今後も継続する必要がある。
- 景観の誘導という点では施策として弱い部分があることがわかった。
国際都市としての仙台市を考えると、今後は、都心部を中心に誘導施策を強化する必要がある。
- 街並み景観の質を向上させるためには、沿道の建物だけではなく、道路などの公共施設のつくり方も重要である。
- 建築物の高さや形態・意匠の制限への対応、空地の創出については、規制の施策によりできている。
- 都心部などで、創出された街並みを、人の関わりによって、より魅力的なものとしていく視点が必要である。

3. ヒアリング・アンケート

【景観施策の関係者へのヒアリング】

実施時期：平成31年2月から3月

対象：まちづくりNPO、中心市街地商店街団体、開発事業者など景観施策に関係する13団体

意見概要：

まちづくり支援団体等

- ・街並みが、地域ごとに異なって街全体としてメリハリがあった方がおもしろい。
- ・景観重要建造物等は指定の対象をもう少し広げて、より広く市民に周知、景観への関心を向上させるとよい。
- ・重点的に取組む場所は、市民とイメージを共有し、市民協働で取り組むべき。

中心市街地商店街団体、景観まちづくり協議会

- ・仙台市にとって、シンボルとなる定禅寺通、宮城野通、青葉通については今後も取組みが必要である。
- ・来訪者に街なかをもっと歩いてもらえるように、沿道のオープンスペースをもっと利活用したい。

開発事業者、設計事務所等

- ・多くの市民や観光客が長い時間を過ごす、街なかのアイレベルの景観の取組みが重要である。
- ・地域ごとの特性が活かされた街並みができると都市全体としておもしろい。
- ・仙台を訪れる人に見せたいものや穴場を磨き上げていくと良い。
- ・街なかの沿道の店舗の賑わいが通りまであふれ出てくると街の雰囲気は良くなる。
- ・仙台の地域資源であるケヤキ並木の通りについて重点的に取組む必要がある。

【アンケート】（仙台市の景観に関する意識調査）

実施時期：平成30年11月から12月

対象：市政モニターアンケート200名（うち、179名から回答）

結果の概要：

- ・仙台市の景観全般に関して市民の満足度は高い（9割以上が満足している）。
- ・仙台の景観の印象としては、「緑豊かで美しい」や「豊かな自然に囲まれている」が多く挙げられ、他に、「歴史や伝統が感じられる」「賑わいや活気がある」が多く挙げられた。
- ・仙台を代表する景観として、「定禅寺通、青葉通など中心部の並木道」が最も多く挙げられ、次いで、「仙台城から一望した市街地」「広瀬川とその周辺崖や緑地」が多く挙げられた。
- ・仙台市が目指すべき景観のイメージとして、「緑豊かで美しい景観」が最も多く挙げられ、次いで、「歴史や伝統が感じる景観」「豊かな自然を活かした景観」が多く挙げられた。
- ・今後景観形成に重点的に取組むべき場所として、「定禅寺通」、「仙台駅周辺」が多く挙げられた。

※参考 大学生へのアンケート（仙台市の景観に関する意識調査）

対象：仙台市及び周辺市町の大学生30名

結果の概要：

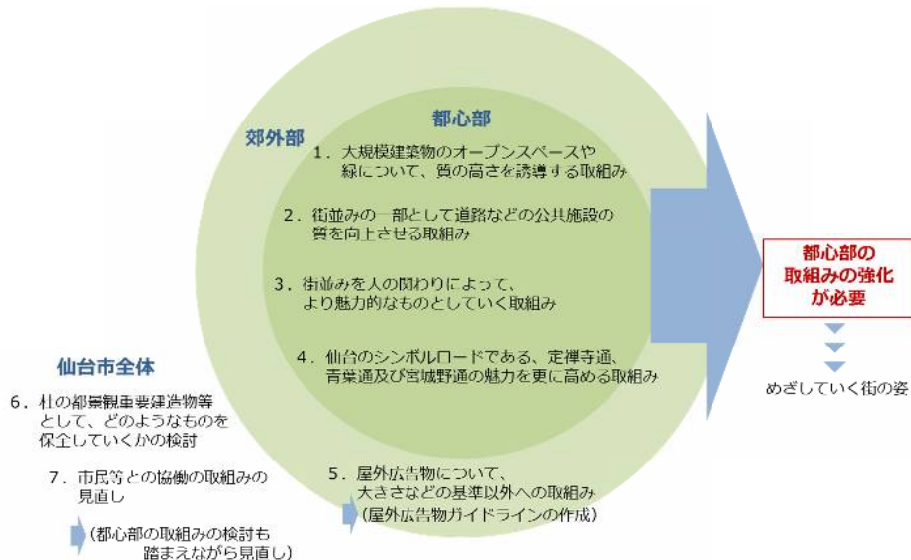
- ・仙台の景観の印象として多いのは「賑わいや活気がある」「緑豊かで美しい」。
- ・今後目指す景観のイメージは、「緑豊かで美しい景観」が一番多く、次いで「賑わいや活気を感じる景観」が挙げられている。
- ・今後、重点的に取組む必要のある場所は、「仙台駅周辺」「アーケード街及びその周辺」が挙げられている。

4. 評価検証から得られた今後の課題

1. 都心部では、大規模建築物の整備の際につくられるオープンスペースや緑について、質の高さを誘導する取組みが必要
2. 街並み景観の質を向上させるには、沿道の建物だけではなく、道路などの公共施設の質を向上させる取組みが必要
3. 都心部などで、街並みを人の関わりによって、より魅力的なものとしていく取組みが必要
4. 仙台のシンボルロードである、定禅寺通、青葉通及び宮城野通の魅力をもっと高める取組みが必要
5. 屋外広告物は、郊外などで派手な色彩や過度な設置のものもあり、大きさなどの基準以外への取組みが必要
6. 都の都景観重要建造物等は、今後どのようなものを保全していくかの検討が必要
7. 市民等との協働の取組みは、時代に合ったものとするともに、施策の効果を上げるための手法などの見直しが必要

<今後の方向性>

評価検証の結果、仙台市の郊外部については、屋外広告物に関する課題があるものの、地区計画による良好な街並みの形成や自然との調和が一定程度図られていることがわかった。一方、都心部については、今後の課題が多く挙げられ、ヒアリングやアンケートにおいても、今後重点的に取組む場所として、定禅寺通などのシンボルロードや仙台駅周辺が多く挙げられていることから、今後は、これまでの取組みに加え、都心部への取組みを強化していく必要がある。



5. めざしていく街の姿（今後の取組み）

今後取組みを強化していく都心部の魅力を高めるために、めざしていく街の姿と今後の取組みを検討した。

(1) 次期仙台市総合計画の都市像など

今後の景観施策の上位計画となる、次期仙台市総合計画（計画期間：令和3年度～令和12年度）が現在検討されている。現在、「都市像とまちづくりを進めるうえで大切にしたい価値観」と「重点的な取り組みの視点」が整理されている（別紙「第5回総合計画審議会資料」参照）。

（第5回総合計画審議会資料から抜粋）

都市像とまちづくりを進めるうえで大切にしたい価値観・重点的な取り組みの視点
市民協働の理念のもと、4つの都市個性（環境・共生・学び・活力）を掛け合わせ、
活かし合うというまちづくりの価値観を市民共有のものとし、
ともに創意工夫と挑戦を重ね、仙台が仙台らしく輝ける新たな杜の都を目指す

重点的な取り組みの視点	視点1 ■ <u>仙台を磨き伝える ～世界に輝く杜の都の深化と継承～</u>	景観施策が特に役割を担う視点
	視点2 ■ 仙台で生きる ～多様性が生きる社会の実現～	
	視点3 ■ 仙台で暮らす ～地域コミュニティの強化～	
	視点4 ■ 仙台で育つ ～子どもを産み育てたいと思えるまちづくり～	
	視点5 ■ 仙台で学び合う ～地学連携を通じたチャレンジと学びの環境づくり～	
	視点6 ■ 仙台で働く ～働く場所として選ばれる環境づくり～	
	視点7 ■ <u>躍動する仙台を創る ～都心再構築と交流都市づくり～</u>	

視点1 ■ 仙台を磨き伝える ～世界に輝く杜の都の深化と継承～

未来の状況	豊かな自然環境を活かした快適で品格のある都市環境が構築された世界に類のない個性的な都市ブランドの確立
取組イメージ	【杜の都の深化】杜の都の資産の活用・保全維持管理、 <u>景観への配慮の強化、グリーンインフラの導入</u>

⇒「杜の都」の豊かな自然環境を活かし、快適な市民生活の確保や地域の賑わい創出、風格や品格を備えた美しい街並みの形成など、更なる価値の向上を図る取組みが必要

視点7 ■ 躍動する仙台を創る ～都心再構築と交流都市づくり～

未来の状況	都心においてビジネス面を中心に民間投資を呼び込む魅力的な都市機能を備えるとともに、 <u>国内外から人が交流を求め集う、楽しめるまちとして活力と賑わいを創出</u>
取組イメージ	【投資促進】賑わい創出に資するビルの建設誘導、老朽化建築物の更新の促進 【賑わい創出】面的な賑わい創出（回遊性向上、 <u>歩いて楽しめる都市空間等</u> ） 【交流人口拡大】拠点性の向上、交流人口ビジネスの活性化（観光資源充実等）

⇒国内外との交流拠点として、都心のにぎわいづくりや楽しめる環境づくり、東北の市町村と連携した効果的な広域観光の推進など、東北・仙台都市圏全体の活力創出に向けた取組みが必要

※上記は、次期総合計画検討段階の資料からの抜粋であり、計画として決定したものではありません。

(2) 都心部で実現したいイメージ

イメージ その1

ケヤキ並木のシンボルロードを中心に、
通りの美しさが、仙台を訪れる人をひきつけ、
通りを歩くこと、通りで過ごすことを楽しみ、通りに賑わいが生まれている。



仲通り（東京・丸の内）

※提供：NPO法人大丸有エリアマネジメント協会

(仙台市)



定禅寺通・宮城野通・青葉通

イメージ その2

シンボルロードに、公園、オープンスペース等が有機的につながり、
市民が暮らしの場として楽しんで過ごしている。

そこに、観光やイベントへの参加など様々な目的で仙台を訪れた人の楽しむ姿が
加わり、街の賑わいを生んでいる。

公園（広場）



(オーストリア)



パリ



ウィーン



ウィーン

(仙台市)



勾当台公園



勾当台公園

オープンスペース



あつみ温泉・鶴岡

(仙台市)



公開空地

道路（街並み）



シドニー



横浜

(仙台市)



アーケード



本町

イベント開催時



定禅寺ストリートジャズフェスティバル



七夕まつり

(3) 実現するための取組み

実現するための取組み

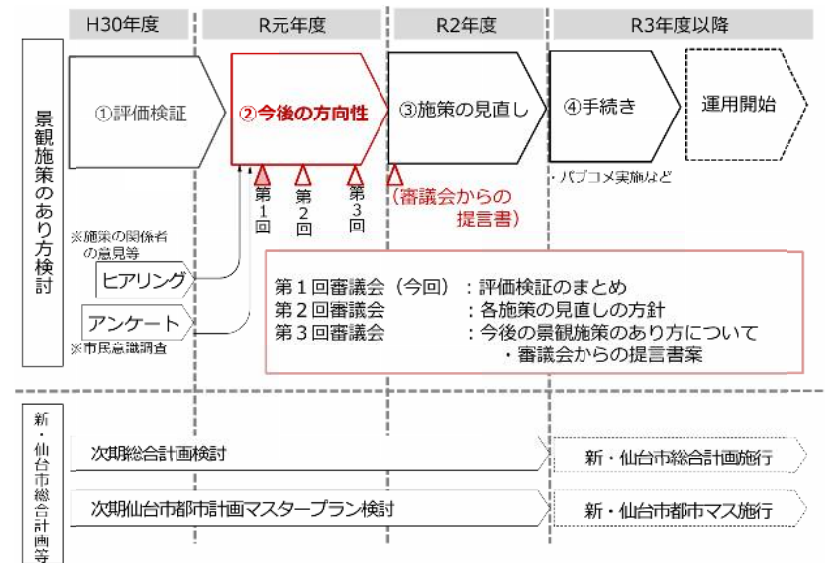
① 街並み景観への取組み ～眺望から街並みへ～

これまで、市街地中心部において、仙名城跡や高層ビルなど高い視点からの眺めが重視されていた。今後は、街で過ごす市民や来訪者に、より近く、容易に視野に入る街並みの見え方や感じ方を重視した施策に取組んでいく。

② 都市空間の質の向上の取組み

定禅寺通、宮城野通及び青葉通など仙台のシンボルとなる景観、公園、沿道の建物やオープンスペース等、都心の空間の質の向上のために取組んでいく。

6. 今後の予定



(審議会からの提言書 構成案)

- 本市の現況とこれまでの景観施策
- 基本的な考え方（重視する視点など）
- これからの景観施策のあり方
- 今後の展開について